

アーククルーズ ボランティア講習会



2月9日(日)午前10時30分からワークショップルーム洋室に於いて、九州大学大学院 統合新領域学術客員准教授 加留部貴行氏によるボランティア講習会が開催された。テーマは『ボランティアという存在』。話はVolunteerの語源はラテン語のVoluntas(自発的にする)、更なる語源はVolo(喜んでする)を意味するという言葉の由来から始まり、ボランティアが社会にお

いて果たす役割、行政(公)と市民(私)との関係性へ展開していった。すべての物事は社会という現場にいる“私”の気づきの一声から始まる。その気づきに「私もそう思う」と共感する人、「そうそう」と続く人が集まり、その声を共有する「私達」に変化する。例えば、バリアフリーは、車椅子の障害者が外出する時の、「建物の段差が不便だ」という声から始まった。それが車椅子を使うのは障害者だけでなく高齢者で歩行が困難になった人にも、子育て中の若い人達が使うベビーカーにも必要という訳で、現在の社会ではバリアフリーはなくてはならないものになっていった。“気づき”は身近なところで発見されていて、“私”の感じている思いを公(ひらく)ことによって共感する他者を得て、その人々が繋がることによって変わる社会がある。そしてそれは市民と行政の関係性を変化させ、私達の住むコミュニティの制度・仕組み・ものの考え方も変化させる。かつて、社会問題は民間同士で解決されていた。道普請・寺子屋・町火消等、民のそれぞれが持てる力を出し合っていた。税金を払って市民サービスをうけるという行政の出現は、人々の行政への依存を日常化させ民間の関係性を弱めていった。平成20年度の国勢調査によると、都市部を中心とした30~40代の単身世帯は30%を超えているという。家庭の中で世代間協力がなされていた高齢者の世話や子育てもまた、核家族・個人化思考傾向の中で、老人介護・子育て支援という行政の役割になった。価値観やニーズの多様化を今日の行政では担いきれなくなってきている。ソーシャルキャピタルの3つの要素に信頼・互酬性の規範・ネットワークがある。人は一人で物事に取り組む時、思い付き・思い込み・思い上がりに陥り易くなる。人と話し合うことで気付かされ、信頼し任せることでも組織も成長する。人の交流は掛け算といわれ、無関心な人との戦いになるが、否定的な人にはそのマイナス要因が解決できれば、強力な関係性を結べる可能性も生まれてくる。ソーシャルキャピタルの豊かな地域は、つまり、市民同士のコミュニケーションの密度や市民と行政のパートナーシップが活発である程、町興し等の地域経済の発展・近隣の治安の向上・子どもの教育成果の向上等豊かな社会が形成される。では、私達はこれからどう活動していけば良いのだろうか。コミュニティの語源はラテン語のCommunitat(共に重荷を担い合う)の意味だそうだ。共働のプロセスを教えてください。

起(共有)→承(共感)→転(共働)→結(共創)である。共有・共感の部分、つまり、一緒にやる相手と良く話をして理解し信頼関係を築くことは、時間がかかり面倒だがより良い成果の為、かかすことの出来ないプロセスだという。そして難解な諸問題に共に取り組み一つのを創りあげる。地元で愛される活動を通して新しい風土を作っていくなくてはならない。ボランティア活動は私達のコミュニティを、より暮らし良くするため失われた民間の関係性を再び結び直す作業である。講師は最後に「皆さん、ボランティアは自発的に喜んでするもの、どうか楽しくやってください」と結ばれた。此の研修は実践に即したのではなく、違った切り口でボランティアとしての私達の立ち位置を考える指標になったように思う。降雪で19名という少ない参加者だったが今後の活動に大きな影響があることと思います。



《alaクルーズギャラリー展示 心にひびくものたち 14》



“木のもの”

平成26年2月26日(水)～3月3日(月)

alaクルーズ企画展シリーズ『心にひびくものたち』第14回目となる今回は「木のもの」。140点の作品が2階ワークショップルーム（洋室）に展示されました。今回で最後になると聞いた時には、一抹の寂し

さを感じました。ガラスショーケース越しではな

く、間近で見ることができ、しかも触れてもよいという展示は稀有な機会。会場内にため息ともつかないどよめきがありました。解説が始まるまでの間、ゆっくり作品を見ることができました。大きな木製の鍵や水筒、乳製品を作る道具など日常使われている作品が主でした。親子連れなどが訪れ人数がかなり増えてきたところで解説が始まりました。入口近くに置いてあった鍵は大変大きくて「こんな大きな鍵を使うなんてかなり大きな家なんでしょうね」という声が上がりました。古い美術本に掲載されたアフリカのマリ ドゴン族の写真の家を見せていただくとアフリカの大地で家を守っていた鍵

で、美しい家によく合っていました。風格がありました。この鍵は人の形をしておりお守りとなっていたかもしれません。お客様の感動の声が解説の度に室内にひびき、まさに「心にひびくものたち」なのでした。鉄仮面にしか見えない木彫りの仮面はドゴン族のもので妥協のないデザインというか現代アートにも通ずる感じです。日本の仮面（お多福）というのもありました。張り子の型です。楠で作ってあるので土に埋まっても腐らなかったそうです。解説者は「日常品の道具でもきれいなものを作ろうとする」「ザイールのものはピョウが打ってあったり、きれいな彫刻や装飾がほどこされているものが多い」

アフガニスタンの木彫板については「下書きなしに彫られている。創造性がかきたてられる」という話をされました。一気に彫られた作品には勢いや作者のエネルギーが感じられます。ものとの対話を大切にするというギャラリー展示の趣旨が反映されていると思いました。





アフリカ、ソマリアのラクダの鈴は、どこか懐かしい砂漠の音で、一生に一度は聞くとよいと思うような感慨深い音色でした。インドネシアの木鈴は最大級の大き
さで、大人二人が
かりで、かついで
運んだのだそうで
す。表面には艶が
あり、とてもきれ
い。牛のおしりを

思わせるなだらかな形。神聖な牛に対する畏敬の念が感じられました。「祈祷箱」は火打ち石や鳥の骨などが入れられていました。蓋がついていて、その蓋は箱の上に置くと捧げものを置く皿ともなり、工夫がみられます。火打ち石は艶があり光沢がありました。長年、なでられていたのでしょう。普段、目にもすることもできない作品にも出会い、豊かな時間を味わうことができました。貝で作られた匙や腰にぶらさげて持ち歩くことができる椅子。「文化とは日々の暮らしよ」という空耳が聞こえたような気がしました。蓋付きの入れものを手に「花を生ける」という発想もあると教えてくれた解説者に、訪れたお客様は熱心に耳を傾けていました。貴重なお話も聞けた楽しい展示でした



展示された数々の木のもの



平成25年度フロントスタッフ活動

★ 財団主催事業のフロントスタッフ活動・・・【協力事業】

- 5月11日(土) 東日本大地震復興支援 祈りのコンサート
5月12日(日) 音楽の絵本
5月23日(木) 俳優座プロデュース「わが町」～5月24日(金)
6月28日(金) 岡村孝子コンサート2013
7月 7日(日) 可児市音楽祭2013
7月12日(金) 風間杜夫 落語独演会
7月21日(日) アルミンク新日本フィルハーモニー サマーコンサート2013
7月27日(土) ウィーン・V・ルジェリウス ピアノ三重奏団
8月17日(土) 多文化共生プロジェクト2013
8月24日(土) かに寄席 納涼
8月31日(土) 「シリーズ恋文」vol.4 ～9月1日(日)
9月 7日(土) Welcome to AG Town vol.24 竹仲絵里
9月16日(月) 千住真理子 ヴァイオリン・リサイタル
9月21日(土) 森山威男ジャズナイト2013
9月28日(土) ala collection シリーズvol.6 「秋の螢」～10月6日(日)
11月 1日(金) 文学座「くにこ」～11月2日(土)
11月17日(日) 大木トオル トーク&ライブ
11月25日(月) 森山直太郎 CONCERT TOUR 2013-14
12月 1日(日) チェコ・フィルハーモニー・ソリストenwith吉鷹奈津子
12月13日(金) Welcome to AG Town vol.25 奇妙礼太郎
1月 5日(日) 新日本フィルハーモニー交響楽団 ニューイヤーコンサート2014
1月18日(土) かに寄席 初席
3月 8日(土) マイタウン 「可児の物語」～3月9日(日)
3月21日(金) 藤村実穂子 メソソプラノ・リサイタル

★ 市民事業フロントスタッフ活動・・・【自主事業】

- 5月25日(土) コーロ・ヴィヴァーチェ 第7回地域交流演奏会
6月 9日(日) 西可児ハーモニー 30周年記念コンサート
6月30日(日) 合唱団「猿」創団30周年記念ステージ
9月15日(日) 女性合唱団{萌} 25周年演奏会
11月24日(日) D-TRUE DANCE SCHOOL 発表会
12月 7日(土) メンネルコール・シュトローム 第3回演奏会
3月27日(木) エルム可児 シャンソン遠藤会
3月30日(日) L' espoir de ballet 第3回発表会



編集後記

春になると何となく心がウキウキしてくるのはなぜだろう。消費税がUPされ物の価格が上がるのに、うかれててはいけないけど、春には不思議な魔力があるのかな？寒かった冬が終わり何か解放された感じ。さあやるぞと意気込む前に足元を固めなきゃ！その前に花見の準備をしなくちゃ(o)

ala クルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414
<http://www.kpac.or.jp/ala-crews/>
Mail : ala-crews@kpac.or.jp

平成26年度通常総会(予定)

平成26年5月18日(日)
午前10時30分受付
午前11時開催
総会終了後交流会開催



昨年の様子